



有料職業紹介 訪問介護 通所介護 宅老&託児 E-mail ホームページ  
 つしま紹介所 (0567)26-1281 ナイス・ケア (0567)26-3699 ナイス・デイ (0567)26-1282 ナイス・ホーム (0567)26-1282  
 info@s-o-s.co.jp http://www.s-o-s.co.jp  
 (有)サポート・ワン・サービス 愛知県津島市愛宕町4-113 〒496-0036  
 代表TEL:(0567)26-3921/FAX:(0567)26-3922

vol. 57 (平成 17 年 05 月 08 日 発行)



# みんな歩いて 何処行くの～？

## 喫茶店に行くのよ～♪



僕にもちょうだい。あ～ん…。

### デイ・サービス利用状況(定期利用者数)

月	火	水	木	金	土	日
10名	7名	9名	7名	9名	10名	8名

## 天王川の藤まつり



利用者さんに戴いた芍薬の花を前に、『立てば芍薬座れば牡丹歩姿は百合の花』という言葉があるけど誰のこと？』と聞いたけど誰も「私のことよ～」とは手を挙げてくれませんでした。でも、「目を奪われる美しさとはまさにこのことだね～」思わずウツリしちゃいました。

## 私のおかあさん ～第5章～

注:このコーナーに掲載される話はスタッフの家族の実話です。

一世一代の大決心をした父は、退職金を頭金にして、名古屋のはずれの山を切り開いて作られた住宅地に一軒家を購入しました。まだ交通の便も整っていない地域で、一番近くのバス停まで20分程歩いて会社や学校へ通う毎日となりました。

ある日、おかあさんが会社のトイレで突然1時間ほど動けなくなったことがあり、そのときはタクシーを利用して自宅まで帰って来なければならず、「何のために働きにでてるのか…」と、タクシーの費用を支払いながら思ったそうです。病院(整形外科)にかかっても「痛くて歩かないと、本当に歩けなくなっちゃうよ！頑張って歩きなさい。」と言われただけだったそうです。「悲しかったけど痛くても我慢して一生懸命歩き続けた。」と話していました。

そんなこんなで、運送会社を辞めることになり、心機一転、幼稚園で勤めることになったのです。が、結局は無理の出来ない足になってしまっていたため、やはり何度も動けなくなる状態があり、とうとう仕事を辞める決断をしなければならず、家に入ることになりました。

兄や姉たちが次々に結婚し、ひとりづつ家を出ることになり、両親の肩の荷が下りる反面、寂しくなっていたらしく、1番最後に残った私に「養子ももらってくれんか？」と聞かれたことがありました。

我が家は子供に恵まれたため「沢山いるから誰かが跡を継いでくれるだろう。」と簡単に考えていたらしく、長男を養子に出してしまっていたのです。私は、養子をとるなんてことは考えもしていなかったため、その話は辞退させてもらいましたが、後になって、「養子ももらって跡をとったほうがよかったかなあ～。」とたびたび思いました。

しばらくたってから1番下の兄との同居話が持ち上がったのですが、最初からひとめし、それまであまり怒ったことのない父がえらく怒り、その後、熱を出してしまうほどの剣幕でした。ところが、いくら薬をのんでも熱は下がらず、医者嫌いの父も根負けしたとみえ、病院へ足を運びました。

「即、入院して下さい。」病名は結核でした。

おかあさんの足のこともあり、なるべく自宅から近い病院へ入院。

毎日歩いて看病に通っていましたが、数年の入院生活の後、完治することなく享年67歳で他界しました。父は自分の死を悟ったときだったのでしょうか、「かあちゃんを頼むな…」と私に言い残しました。

その言葉は、今でも私の脳裏から離れることはありません。



結婚式の日

## ナイスな手作業

～庭木の剪定～

ゴールデンウィークのある晴れた日。社長自ら庭木の剪定をしました。チョコキン！チョコキン！！  
 デイの利用者さん達も外に出て、「その枝は切ってもいいんじゃない？」「いやあ～切り過ぎよ～。」  
 「家の庭も頼むわあ。(笑)」など楽しいやりとりが聞えましたよ



ちょっと、スッキリ  
 しすぎちゃったかな…。

## ナイスな勉強会・・・「連携」

今回は事業所内での連携の話。

まずは事業所内でのスタッフ同士の連携が取れていないと、利用者さんの状態変化になかなか気付くことができません。重大なことも些細なことも、気付きが遅ければ、「しまったあ～。」と後悔するだけではならず、利用者さんの命にかかわることもあるでしょう。

そこで、スタッフが一丸となり、利用者さんの状態変化に気付けるよう注意します。

「さん、今日、\* ; なんだけど大丈夫かなあ??」など、気付いたことは、管理者もしくは、責任者へ報告します。

また、当社では、介護技術的なことは介護の相談役、掃除の方法や調理買物などについては生活援助の相談役へ相談して確認するように心がけています。

そうした中でまとめられた情報を、きちんと繋いでいくことで、提供するサービスの中で発生するお互いの役割を認識し合い、利用者さんの変化にすばやく対応していくことができるのではないのでしょうか・・・。

上記の連携は、各関係事業所(特に介護支援事業所)の方、家族・親戚など関係者の方などに対し、いかに確実な情報をお届けできるかに関ります。

私達には、サービスを提供させていただき以上、各機関との連携や情報の共有なども義務付けられているのです。4月から施行された「個人情報保護法」の情報漏れに該当しないか・・・と思いながら、必要な時に必要な情報を各事業所等と上手に連携する方法がないものか考えています。

ご契約時に同意していただくものの、利用者さんの中には、「日々の自分のことを勝手に話されては困る。」という想いをもってみえる方も沢山みえると思います。ですが、この場をお借りして、連携(情報の共有)の重要性をご理解いただくと助かります。ご相談を受けた時など、報告が必要な～と感じることは、その都度「ケアマネージャさんにもお話ししますね。」など、了解を得るよう心掛けるようたいと思います。

次回・・・「連携」

### スタッフの独り言・・・

はじめまして、大森裕子です。

前は、4年間施設に勤めていました。

今の仕事(訪問介護やデイサービス)は、始めてなので、いっぱい覚えることがあり、ちょっと(?)覚えの悪い私はオロオロして皆さんに迷惑かけっぱなしの毎日を通していきます。要領が悪いなかでも、料理になると特に苦手で、旦那さんのご飯作りで勉強中です(笑) 私が訪問担当で調理をした後に担当したスタッフの方は、もうすでに「あの子は手際が悪いなあ」と笑われていたこともあるようです。すみません。直接言ってもらってもOKなので、何でもドシドシ教えて下さい。人生の先輩の皆さんに育てていただきたいとあつかましくも思っております。

こんな頼りなげな大森ですが、

長～～～い目で見て下さい。

よろしく願いいたします。

「元気だけは人一倍あります！」



### 編集後記

こここのころ、盛んに言われていた「介護職の資格を介護福祉士に統一や介護職の研修体系の見直し」について率直な感想を・・・。

介護福祉士の実技試験の免除の方法など、いろんな情報が飛び交っていますが、どれも講習にかかる費用の高いものばかり。

真に、そして早急に質の高い介護職を育成しようと国が考えているならば、できるだけ費用が安く・中身の充実した研修が受けられるよう研修機関を整備してもらえないものだろうか？

介護職が色々な研修受け、知識・技術を身につけるのはとても大切なことですが、まず、現場で活用できる研修をさがすことに一苦労しています。真面目に介護に関わっている人たちがこぞって参加したくなるような講習をご存知の方は是非教えてください。(H)